

# 「心得」の本質はどこにあるのか？

見直しを経て新たに作成された「学校生活の心得」が、2月14日（火）に運用開始となって2週間が経過しました。内容の全面的な検討・見直しを行った結果、具体的な記述が大きく削減されたことで、生徒の皆さんの中には自分の学校生活に変化が生じた人がいるかもしれません。



大森先生の話「目」と「耳」と「心」で真剣に聴く大中生

この2週間、問題や心配事が何もなくあったかという、決してそうではありません。生徒の外見や言動に変化があると同時に、生徒同士で、また生徒と教職員の間で、様々なやりとりがありました。どう判断すればよいか悩む生徒もいました。また、生徒の変化や生徒の主張にどう対応するか悩む教職員の姿もありました。このようなこともあり、改めて「心得」の本質を確認するために、昨日の全校朝会で大森先生から話をしてもらいました。

- 『心得』に書いてないから、やっていい」ということではない。活動によって、決められていることやマナーとして守るべきことがある。
- 今回、あえて「記述しない」ことになったのは、「大中生としてあるべき姿」を一人一人が考えて、判断することを大切にしたいから。「書かれているから守る」から、一つステップアップしてほしい。
- 人によっていろいろな考え方がある中で、先生方もそれぞれ感じたことを生徒に話す。でも、これを「圧」ととらえないでほしい。生徒からも考えを聞かせてもらい、先生方も生徒の皆さんから学び、共に考えたい。

\*\*\*\*\*

## 大形中の生徒・教職員の真価が問われている！

今回の「心得」の改定は、大形中の生徒だけでなく教職員にも大きな問題を投げかけました。新しい「心得」をどう解釈し、それを通して生徒とどう向き合ったらいいのか。このことを話し合うために、運用からわずか3日後の2月17日（金）に緊急の職員会議が開かれ、予定の30分を大きく超える1時間にわたって議論が交わされました。

「具体的に記載されていないことにどう対応したらいいのか。」長い髪型一つについても、教職員の中で様々な捉え方や考え方があり、その差を埋めることは容易ではありません。これまで具体的で明確に規定されていた決まりの意義や妥当性について、深く考えることなく指導の拠り所としていた実態を改めて見つめ直し、これからの自分たちは生徒とどう向き合えばよいかを考えた時間でした。

結局、結論は出ないまま会議が終わりましたが、自分はこれでいいと思っています。今回の「心得」の改定は、私たち大形の生徒・教職員が、決められていることに思考停止のまま従うのではなく、一人一人が主体的に考え、悩みながら、最終的に適切な判断ができる存在となることを求めているのです。ここにこそ、「心得」改定の本質があると、自分は考えています。

## \* 今こそ「対話」を！ 遠慮なく語り合おう！ \*

皆さんの判断は適切なものとなっていますか。適切であるとする根拠をどこに求めますか。多様な考え方がある中で、大中生全員にとっての「最適解」「納得解」を求めるための唯一の方法と言ってもいいこと、それは「対話」です。多くの仲間、先生方と対話することにより、自分の判断の妥当性を見直すことができます。

「書いてないから、自分の思ったとおりでいい」というのは、自分にとって都合のいい解釈、判断でしかありません。大森先生は、皆さんがそこからステップアップすることを期待して語ったのだと、自分は受け止めています。

大形中学校 校長室だより  
夢・希望・未来

令和5年2月28日

第30号



「自分たちももっと対話を！」  
中村先生が、熱く訴えかける

